短 報 Short Notes

秋田県に飛来したナベヅルの観察記録

小笠原 暁¹⁾・丹波 清暢²⁾・小川 實²⁾
佐藤 磯男³⁾・泉 祐一⁴⁾

Occurrence of Hooded Cranes *Grus monacha*
in Akita Pref. Northern Honshu, Japan

Ko Ogasawara, Seicho Tanba, Minoru Ogawa, Isao Sato
and Yuichi Izumi

Abstract 1) Hooded Cranes (*Grus monacha* Temminck) were observed in the vicinity of the Hachiro-gata and in Wakimoto, Oga city, Akita Pref. during December 1980 to February 1981. 2) A flock of six birds was first found on rice field of Wakami-machi, 19 December 1980. Two were seen at Hachirogata-machi, 13 January, two at Hitoichi, 17 January, four birds at Wakimoto, 30 January, and four at Wakami-machi, 30 January 1981 (Tables 1 and 2). We also saw a solitary bird in rice fields of Wakami-machi during 4 to 25 February 1981. 3) Its feces collected from rice field (by Mr. K. Tanba and Mr. T. Nishide) and analysed by Dr. T. Naito (Botanical Garden of Tohoku University, Sendai) contained many fragments and seeds of rice plant (*Oryza sativa*).

ナベヅル (*Grus monacha* Temminck) は我国には冬鳥として、鹿児島県出水市荒崎および阿久根市、山口県熊毛郡熊毛町八代に 10 月中旬に渡来するものの (日本鳥学会 1974)、その他の地域への渡来はほとんど知られていなかった。

澤田 (1981) によれば、高知県中村地方には、7, 8 年前からマナヅル (*Grus vipio*) が越冬し、1979 年暮からナベヅルの越冬もはじまり、1980 年から 1981 年の冬には十数回にわたり、通算 237 羽が渡来、うち 16 羽が越冬したという。

秋田県八郎潟周辺にも 1980 年 12 月中旬以降 1981 年 2 月末頃までナベヅルが渡来し、しかも比較的長期にわたり滞在した。

ナベヅルの渡来は秋田県はもとより、東北地方でも近年にはなく、著者らは出来る限り本種の滞在、生息状況の観察をするようつとめ、2~3 の知見を得た。

本調査にあたり校務多忙の折にもかかわらず、丹波、小川にナベヅルの観察のため、多くの時間を与えて下さり、また児童にも協力させ、野鳥に対して常に野鳥保護教育指導を行って

Received 27 November 1981

¹⁾ Department of Biological Education, Akita University, Tegata-Gakuencho, Akita 010.

²⁾ Wakimoto Daiichi Primary School of Oga City, Wakimoto, Oga, Akita 010-03.

³⁾ Funagawa Daiichi Primary School of Oga City Funagawaminato, Oga, Akita 010-05.

⁴⁾ Nature Conservation Section, Akita Pref. 4 Sanno, Akita 010.

る脇本第一小学校、石垣禮之輔校長に対し感謝申し上げる。さらにナベヅルのフンを提供して下さった西出隆氏、フンの分析をして下さった内藤俊彦博士に心から感謝申し上げます。

観 察 記 録

Table 1. Records of Hooded Cranes in Wakami-machi, Minami Akita-Gun during 19 December 1980 to 31 January 1981, reported by Sakigake News papers.

観察年月日	群れ構成	観 察 場 所
1980.12.19	6 羽	水田 若 美 町
1981. 1.13	2 羽	水田 八郎潟干拓地
1981. 1.17	2 羽	水田 八郎潟町一日市 (1 羽鳥獣保護センターにて保護)
1981. 1.31	4 羽	水田 若 美 町
2 月 4 日から 2 月 25 日に成鳥 1 羽が若美町水田にてしばしば観察される。		

秋田魁新報の記事(1981 年 1 月 22 日, 3 月 3 日)によると, ナベヅルが今回本県で最初に確認されたのは, 1980 年 12 月 19 日で, その後八郎潟周辺の水田であいついで発見された。その結果を, Table 1 に示した。

その間著者らのうち, 丹波, 小川の勤務する男鹿市脇本第一小学校付近(Fig. 1 中の B.)の湿地や一部雪の少ない水田で餌をあさっているナベヅル 5 羽の群れが確認された。それらの観察記録を Table 2 にまとめて示した。

その群れは幼鳥 2 羽, 成鳥 3 羽から構成されていた(Photos 1, 2)。

しかしその群れは, 1 月 30 日 4 羽(幼鳥 2, 成鳥 2)の群れとなっていた。5 羽の群れから成鳥 1 羽がぬけたと思われる群構成となっていることが注目される。

Table 2. Records of observations of Hooded Cranes in Wakimoto, Oga City during 21 to 30 January 1981.

観察年月日	時 間	群れの構成	観 察 者	備 考
1981. 1.21	16 : 30	5 羽	小山田 浩 二 小 玉 薫 児 玉 孝 之 昆 靖 典 平ノ内	湿地にて採食, 近づくとも飛び立ち数回せん回の後生鼻岬方面へ
1981. 1.22	8 : 00	5 羽	吉 田 賢 悦	脇本本村上空をせん回
1981. 1.23	11 : 00	5 羽 (成鳥 3 幼鳥 2)	小 川 實 石 垣 禮之輔	水田の上にて休息
	13 : 40 ? 14 : 25	5 羽	丹 波 清 暢	雪どけの水田で採食・休息, 14:25 せん回し生鼻方面へ飛び去る。フンを拾う
	14 : 30 ? 15 : 30	5 羽	小笠原 暁 泉 祐 一	雪上にて休息
	1981. 1.24 ~29		丹 波 清 暢 小 川 實	観察を続けたが姿を見ず
	1981. 1.30	4 羽	脇本小六年児童 数名	上空を飛んでいるのを観察
1981. 1.30	13 : 40 ? 14 : 19	4 羽 (成鳥 2 幼鳥 2)	丹 波 清 暢	水田にて採食, 休息 14:10 せん回して北方へ飛び去る
	15 : 00	4 羽	吉 田 賢 悦	上空を飛んでいるのを観察

Fig. 1. Localities where Hooded Cranes occurred in Akita Pref. during middle December 1980 to late February 1981.

その後 2 月 4 日から 25 日の間にしばしば成鳥 1 羽が Fig. 1 に示す C, D, E 付近の水田 (若美町) で採食しているのが観察されており, また 2 月 7 日には 4 羽 (幼鳥 2 羽, 成鳥 2 羽) の群れが, C~E 間を移動 (9:30~11:20) しているのが観察され, さらに八郎潟干拓地内 F でも観察された。C~E 間でしばしば目撃された成鳥 1 羽が, A 地点で発見された残りの 1 羽であるか, 或いは脇本におとずれた 5 羽の群れから離れた 1 羽であるか, または全く別個体であるかは判別できなかった。しかし脇本に現われた 5 羽の群れと 4 羽の群れ (Table 2) は同じものと考えられ, 1 月 30 日には成鳥 1 羽が群れから離れて, 4 羽の群れとなり, その群れが, 再び 2 月 7 日に C~E 間および F 地点 (Fig. 1) に現われたものと考えられる。従って本ナベヅルの渡来の本拠地は C~E 間の若美町の水田付近であり, 時折そこから雪積の少ない海岸部の脇本の水田地帯に飛来したものと思われる。

Photo 1. A flock of five Hooded Cranes (one is out of picture) in Wakimoto, Oga city.

Photo 2. A flock of five Hooded Cranes circling over Wakimoto, Oga city.

考 察

これらのナベヅルは大陸から鹿児島県や山口県に渡る途中、何らかの原因により、コースをはなれ、秋田県に飛来したものと考えられる。1980 年から 1981 年の冬季、当地は比較的降雪の少ないこともあって、これらのナベヅルは比較的長い期間当地に滞在したものと思われる。

本種は雪のとけた水田や水田上につまれた稲わらの間に首をつっ込んで採食していたし、時折イネの穂を飲みこむところを観察している。若美町および脇本の水田で拾った本種の糞を分析したところ（東北大学植物園，内藤俊彦博士），11 個ともすべて稲の穎であった。しかし，本種がネズミ類（ハタネズミ）を捕食していた例が報道された（秋田魁新報，1981.3.3）。

引 用 文 献

- 秋田魁新報. 1981 年 1 月 22 日, 3 月 3 日付記事.
 澤田佳長 1981. 雪の中で越冬するナベヅル. 科学朝日 41(5): 17. 朝日新聞社.
 日本鳥学会 1974. 日本鳥類目録. 学研.

小笠原 嵩: 秋田大学教育学部生物学研究室 〒010 秋田市手形学園町 1-1
 丹波清暢, 小川 實: 脇本第一小学校 〒010-03 秋田県男鹿市脇本
 佐藤磯男: 船川第一小学校 〒010-05 秋田県男鹿市船川港
 泉 祐一: 秋田県自然保護課 〒010 秋田市山王四丁目